

名古屋市との陳情について活動報告書

平成21年11月19日(木)
記録者 高橋金治



日時：平成21年11月19日(木)
午前11時00分～12時00分

場所：名古屋市役所 2階会議室
出席者：久野 浩平市議会議員
市側：名古屋市健康福祉局 長谷川局長、
赤井部長、若杉部長、近藤部長、
後藤部長、佐藤部長、大橋課長、
渡邊課長、宮沢課長、倉橋係長、
山田係長 以上11人

市腎友会：加藤会長、山本副会長、小栗副会長、奥村会長代行、水上女性部長
高橋(元)事務局長、高橋(金)編集部長、三浦愛腎協名古屋第5支部長、
石川(強)西尾・幡豆地域腎友会代表 以上 9名

目的：① 障害者医療費助成制度の継続 ② 透析患者の通院状況を訴え、タクシーチケットの増発要望 ③ 肺炎球菌ワクチン予防接種公費助成について

内容：各テーマ事に市腎友会役員より、透析患者の現況を訴え、実現をお願いした。
① 障害者医療費助成制度は透析患者の命に係る問題、22年度以降も継続を要望。
② タクシーチケットの増発について、透析患者の通院状況を訴え、年間312枚必要だが、現在120枚支給されている。36枚増やしてせめて帰りの分156枚にして欲しい旨を要望した。(透析患者は週3回、年156回の透析するため通院しますが、透析後の体力が衰えているため、タクシーを利用する)
③ 肺炎球菌ワクチン予防接種公費助成は全国174市町村で公費助成が実施されている。愛知県でも長久手町、東海市、日進市、小牧市で実施済み、名古屋市は福祉先進都市と言われているので、是非公費助成をお願いする旨要望した。

名古屋市健康福祉局の回答：

- ① 22年度について障害者医療費助成制度は継続します。現在市内では対象が29,000人、また、肝機能障害も来年の4月から助成対象となります。
- ② タクシーチケットの増発については、透析患者の通院状況はわかりましたが、昨今の経済情勢で、市の財政も削減を前提に見直しが行われている状況、現在の助成制度も全国的に見て名古屋市が1番多いので、現状の状態では増やすことは大変厳しいと言わざるをえない。
- ③ 肺炎球菌ワクチン予防接種公費助成については市も現在、検討課題として取り組んでいる状況で、安全性とリスクの問題が解決されれば、実施可能。
(全国174市町村の公費助成額の平均は3,000円、実費6,000～8,000円)